

授業科目名	科学コミュニケーション	単位数	2単位
担当教員名	浅見 奈緒子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本科目では、社会全体で人々が豊かに生きるための科学リテラシーを身に付けるための、科学コミュニケーションとは何かを理解する。これからの科学技術がなくてはならない社会において、科学の論理的・批判的思考を育むことは重要である。科学コミュニケーションを行う上で、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の3つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢で臨んでほしい科目である。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 基礎教養としての科学を理解し、自然科学に対する科学的な見方や考え方、論理的批判的思考力を身に付ける。</p> <p>(2) 科学コミュニケーションとは何かを知り、科学を伝えるということはどういうことかを理解し、科学リテラシーを育む環境づくりの重要性を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>科学コミュニケーションは科学と社会の様々な要素をつなぐ役割を果たすことを理解し、科学コミュニケーション活動を知り、参加することで科学リテラシーを高め、その多様性と広がりについて考えていく。科学技術社会で生きる私たちにとっての科学教育の重要性を、歴史的背景、実際の実践事例などから学修する。</p> <p>スクーリングではアクティブラーニングの手法を用いて、グループワークを実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：科学コミュニケーションとは</p> <p>第2回：社会的背景の影響</p> <p>第3回：科学を伝えるとはどういうことか～伝える人～</p> <p>第4回：科学を伝えるとはどういうことか～伝える方法～</p> <p>第5回：科学と社会をつなぐ</p> <p>第6回：私たちのまわりの科学コミュニケーション</p> <p>第7回：私たちのまわりの科学コミュニケーション～学校教育～</p> <p>第8回：私たちのまわりの科学コミュニケーション～研究機関・企業～</p> <p>第9回：私たちのまわりの科学コミュニケーション～博物館～</p> <p>第10回：私たちのまわりの科学コミュニケーション～海外の事例～</p> <p>第11回：科学リテラシーの形成</p> <p>第12回：科学の基礎知識</p> <p>第13回：科学コミュニケーションを実践するには</p>			

第14回：実践してみよう

第15回：活動の位置付け、振り返り

定期試験

スクーリングでの学修内容

すべての内容について包括的に取り上げる。

(主に、第3～15回の内容を含む。)

教科書

(1) 鈴木真理子他(2014)『科学リテラシーを育むサイエンス・コミュニケーション』
北大路書房 ISBNコード 9784762828348

(2) 独立行政法人 国立科学博物館(2017)『科学を伝え、社会とつなぐ サイエンスコ
ミュニケーションのはじめかた』 丸善出版 ISBNコード 9784621301975

(3) ジョン・K・ギルバート他(2015)『現代の事例から学ぶ サイエンスコミュニケー
ション』 慶応義塾大学出版会 ISBNコード 9784766422030

参考文献

(1) 藤垣裕子・廣野喜幸『科学コミュニケーション論 新装版』東京大学出版会
2020年 ISBNコード 9784130032094

(2) 滝川 洋二 編著『発展コラム式中学理科の教科書 改訂版 物理・化学編』
講談社ブルーバックス 2014年

(3) 石渡 正志・滝川 洋二 編著『発展コラム式中学理科の教科書 改訂版
生物・地球・宇宙編』 講談社ブルーバックス 2014年

(4) 村上陽一郎『科学者とは何か』 新潮社 1994年

(5) 北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット編『はじめよう！科学技術コミュニ
ケーション』 ナカニシヤ出版 2008年

(6) 左巻健男(編著) 『科学のふしぎ366』 きずな出版 2021年

学生に対する評価

レポート評価(25%)、スクーリング評価(25%)、科目修得試験(50%)を総合して評
価する。